

ご案内

兵庫21回生 西播磨地区 寶山さんからのご案内です。

龍野歴史文化資料館で「戦後75年 あの日に生きた先人たち」という企画展を開催中です。資料館でわくわくプロジェクトで朗読劇をする予定でしたが、コロナの影響で動画になりました。

YouTubeでも配信されています。

たつの市立龍野歴史文化資料館 企画展

戦後75年
あの日に生きた先人たち

久長 運武

令和2年8月1日(土)～9月13日(日)

たつの市立龍野歴史文化資料館

〒679-4179 兵庫県たつの市龍野町上層城128-3
TEL 0791-83-0907 FAX 0791-83-0998
http://www.city.tatsuno.lg.jp/rekibun/

戦後75年 あの日に生きた先人たち

当館では、戦後50年の特別展「あの日の私たち」、戦後70年には企画展「あの日の子どもたち」を開催し、戦争について、そして平和について考える機会としてきました。終戦から75年の月日が流れ、戦争体験者は少なくなり、その記憶も薄れつつあります。

そこで、本展では様々な資料から、当時の時代背景やその時代を懸命に生きたふるさとの先人たちの姿を紹介します。

三木清とともがら

内海信之と詩集(戦後)

田中静雲(後野中央)と西田正雄(向かって後列右端)

丸山龍二と(庄内平野)

反戦詩人でありながら、やむを得ず公職に就き、若者の出兵を嘆いた内海信之。終戦直後の若手行校のクーデターを阻止した後に自決した田中静雲陸軍大尉。多くの同人が軍歌を作る中、軍歌を作らなかつた三木清。哲学者として世界的に高い評価を受けていたにもかかわらず、獄中において無念の死を遂げた三木清。田中の経弟で、龍野中学校では三木清の同期であった戦艦「比叡」最後の艦長西田正雄。文人として戦後を悔悟と苦悶の思いで過ごした農民文学者丸山龍二。国民総動員で戦争へ突き進んだ時代。多くの人が軍国主義の大きな渦に巻き込まれていきました。そのような時代にそれぞれの置かれた立場によって様々な生き方をした戦士の先人たち。

戦争の悲惨さや残酷さを知らない世代が大多数となる中、今を生きる私たちは、その時代を考察しながら、先人たちの生き様から多くを学び、戦争の犠牲となりながらも平和な日本の礎となった人々の思いを見つめ直すことが今こそ必要ではないでしょうか。本展がその一助となれば幸いです。

<https://www.city.tatsuno.lg.jp/rekibun/anohiwoikitasenjintachi.html>

龍野歴史文化資料館で「戦後75年 あの日に生きた先人たち」という企画展をしています。わくわくプロジェクトという劇団で朗読劇をする予定でしたが感染拡大防止の為、動画になりました。

戦地から我が子を思う手紙、兵隊さんへの慰問の手紙、残された妻の思いなどを朗読と映像で綴ります。



